

委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成、行数は任意で追加)

委員会名	文教厚生常任委員会			
参加委員	◎山口 和男	○十二村 秀孝	渡部 忠寛	田中 修身
◎委員長、○副委員長	坂内 まゆみ	高畑 孝一	五十嵐 吉也	

1 本市の課題と視察の目的

近年、局地的に降る猛烈な豪雨によりこれまでにない大きな被害につながる災害が頻発しており、本市においても、令和4年8月3日から4日にかけての大雨によって、甚大な被害が発生した。

千歳市は、市民や防災関係機関の防災力を高めるとともに、防災関係機関に対する理解を深めることを目的として防災学習交流施設を建設している。千歳市の取組を研修させていただくことで、本市における今後の防災・減災に係る取組の参考にする。

2 実施概要

実施日時	視察先	北海道 千歳市（防災学習交流センター）
令和5年8月22日（火） 10時06分～11時25分	担当部局	千歳市 総務部 防災学習交流施設
視察項目	防災学習交流センター「そなえーる」について	
報告内容	1 防災学習交流施設事業費・工程 (1) 事業期間：平成18年度～平成22年度（平成17年度に補助事業として採択） (2) 整備総面積：約8.4ha (3) 総事業費：約21億円（防衛省の民生安定事業：補助率75%） 2 防災学習交流施設建設の経緯と目的 千歳市は、自衛隊が市街地の三方を取り囲むような形状で、市街地の縁周部には装軌車両、主に戦車が頻繁に通行する、延長約10kmの公道、通称「C経路」が通っている。このC経路は、一部住宅街を通るため、沿線住民から騒音振動による被害などが寄せられていたことから、市は、C経路沿道の課題解決を図るとともに、市の総合計画で位置づけている防災対策の推進や自主防災組織の充実などの観点から、住民要望や住民懇談会での議論を踏まえて防災学習交流施設の整備を決定した。 3 施設の概要（総面積約8.4ha：A・B・Cの3つのゾーンからなる） (1) Aゾーン（4.3ha） 3階建て延べ面積約2,300㎡の防災学習交流センター「そなえーる」をはじめ、広さ約2.4haの防災訓練広場、ロープ訓練塔、防災備蓄倉庫を兼ねた副訓練塔、常設ヘリポート、駐車場などを完備している。 (2) Bゾーン（1.1ha・「学びの広場」） 造成に伴う雨水調整池と消火体験や救出体験を通し、自助・共助を学ぶ広場になっている。 (3) Cゾーン（3ha・「防災の森」） 約150人がキャンプに利用できる「野営生活訓練広場」と調整池を兼ねた「多目的広場」湧き水を利用した「河川災害訓練広場」、「土のう訓練広場」、さらにア	

	スレチック遊具などを備える「サバイバル訓練広場」のほか管理棟、駐車場を配置し、共同作業が体験できる広場となっている。 4 「そなえーる」の概要 災害を「学ぶ・体験する・備える」をキーワードに、いろいろな災害の疑似体験をしながら、防災に関する知識や、災害が発生したときの行動を学ぶとともに、防災講座、自主防災組織の訓練などの防災学習の拠点施設として活用されている。 体験コーナーとしては、地震体験、煙避難体験、予防実験、通報体験、防災情報検索、避難器具体験コーナーなどがある。 5 管理・運営 施設の管理・運営は、現在再任用職員（施設長）１名と会計年度職員８名の９名体制で、屋内外設備の維持管理や施設利用者への説明並びに展示場の案内、訓練広場の開放などの業務を行っている。 また、５月から１０月までの間は、Ｃゾーンの「防災の森」が常時オープンしていることから、会計年度職員３名を採用して施設の管理・運営を実施している。 施設の運営時間は、朝８時４５分から夜９時までとし、屋内訓練室と防災訓練広場を貸し出しているが、展示場の開館時間は朝１０時から夕方５時までとなっている。 なお、夜間の管理は、夜９時から翌朝８時４５分の間で、警備保障会社に委託し施設の警備体制を整えている。 休館日は、毎週月曜日のほか第４週目の火曜日を整備日として休館しており、祝日が休館日と重なった場合は翌日が休館日となっている。 6 事業内容・施設の利用状況 市民の防災意識を高めるため、千歳市総合防災訓練や町内会、自主防災組織等による消火・救出等の防災訓練、救急救命率の向上のための救急講習会、市民を対象とした千歳市民防災講座や町内会、自主防災組織及び事業所等を対象とした防災関連講座、防災イベントなどの事業を展開している。 防災学習交流施設の利用状況は、平成２２年度から令和４年度までの１２年間で４８万人を超えている。
考 察 (まとめ)	千歳市は、自衛隊が市街地の三方を取り囲むような形状で、市街地の縁周部には装軌車両、主に戦車が頻繁に通行する状況があることから、市民の防災に対する意識は他自治体よりも高いものであるのではないかと感じた。さらに、市内の小学生は防災の授業があり、その授業の一環として「そなえーる」の見学、または体験をしているとのことであった。 施設を生かした講座や体験などにより市民等の防災意識の向上を図る様々な取組は、大変参考になるものであった。

